

浅田彰

photographs by Hiroshi Takakura text by Kentaro Matsui

1974年に発生した多摩川水害の現場や、二ヶ領用水宿河原堰のそばにある『二ヶ領せせらぎ館』を訪ね、治水の重要性を改めて語った田中・浅田両氏。最高気温が35度を超える多摩川河川敷を歩きながら、酷暑対策を迫られる東京オリンピック・パラリンピックや、横浜にMICEを建設する提案についても語り合った。

今月の憂いコト

田中康夫

多摩川水害の教訓から、酷暑の東京五輪、横浜にMICEの提言、カジノ資本主義への危惧。

憂



憂国呆談

season 2 VOLUME 99

集中豪雨や土砂崩れが頻発。 40度超えがノーマルに？

浅田 前回、西日本豪雨について話したこともあって、今日は1974年に起こった多摩川水害で堤防が決壊した場所を訪ねた。狛江市側の河川敷には99年に設置された「多摩川決壊の碑」があり、こう刻まれている。「8月31日深夜から9月1日夕方にかけて、台風16号の影響をうけ、上流水川を中心にした多量の降雨のため、多摩川の水位が上昇を続けました。この出水により、1日昼頃、二ヶ領宿河原堰左岸下流の取付部護岸が一部破壊されたのを発端に、激しい迂回流が生じたため高水敷が侵食され、懸命な水防活動もむなしく、午後10時過ぎには本堤防が決壊し、住宅地の洗掘が始まりました。迂回流はその後も衰えを見せず、本堤防260mを崩壊させたうえ、1日深夜から3日午後までの間、狛江市猪方地区の家屋19棟を流失させる被害をもたらしました」。河岸が濁流に削り取られ、家が流された当時のニュース映像を思い出した。

田中 あの水害を題材にして書かれたのが、山田太一の『岸辺のアルバム』。77年には八千草薫主演でテレビドラマ化され、洪水で家が流される報道映像も使われて話題になった。碑文にも少しだけ書かれていたけど、被災住民は多摩川を管理する国に対して国家賠償を求めて提訴した。地裁で勝訴、高裁は敗訴、最高裁が差し戻して最終的には16年後の92年に判決が確定して勝訴する。けれどもそれは民事訴訟なんだ。多摩川水害を含め、こうした「人災」で河川管理者の国や自治体が刑事事件として問われたことは過去一度もない。

ちなみに、現在の河南省登封市の辺りに

存在した中国最古の王朝と史書に記されている夏王朝（紀元前1900年頃）の始祖である禹は、黄河治水の祖と呼ばれている。彼は当初、堤防を高くした。けれども、チベットが源流の黄河は時に荒れ狂い、甚大な被害を及ぼす。水を河道内では収めきれないと気づいた彼は、人家や田畑への被害が最も少ないと判断した個所の堤防をあえて断ち、河道外に水を逃がすようにした。断つことを決める。それが「決断」という単語の原義だと言われている。

浅田 文明は治水に始まるわけだね。四川大地震の被災地としても有名な都江堰は、紀元前3世紀に秦が原型をつくったと言われ、「魚嘴」という構造物で川を左右に分水することで洪水を防ぎ灌漑に役立ててる。

田中 魚や水生生物が棲息しにくくなり、大雨の時も勢いが増すのに、維持修繕の手間が省けるからと田園地帯でも両岸と川底をコンクリートの三面張りにするのが、科学技術の成果だと勘違いしている現代の方が、実は退化している。

南アルプスから流れる三峰川が「暴れ天竜」として有名な天竜川と合流する地点には、現在も堤防がない。武田信玄が考案したと伝えられる霞堤だね。あえて内水氾濫を起こさせて、上流域での洪水を防ぐ。その一帯の営農地は被害を受ける。けれども養分が運ばれて翌年は豊作だ。一級河川の天竜川を管理する国土交通省も、その意味を理解しているから、放置でなく保全している。その点は評価すべきだけど、前回も話したように、土堤原則に固執する水管理・国土保全局（旧・河川局）はアメリカ



や韓国で導入されている鋼矢板工法を頑として受け入れようとしない。謎だね。

浅田 ともかく、今年の夏は記録破りの猛暑に見舞われ、各地で熱中症になる人が続出。海からの水蒸気も増えるから、集中豪雨や台風による水害や土砂崩れも頻発している。これが地球温暖化のもたらす「新しい常態（ニュー・ノーマル）」だとしたら、治水も従来の想定を超えた見直しが必要だね。

田中 スティーヴン・ホーキング博士は「人類に残された時間はあと100年」このまま人類がCO₂を排出し続けたら地球の気温は250度に達する」と警告して亡くなったけど、すでにその道を歩み始めて

いるのかもしれないね。皮肉にも野球以外のアメリカ4大プロスポーツのアメリカンフットボール、バスケットボール、アイスホッケーがシーズンオフだから真夏の開催になったオリンピックも、40度を超すと中止しななければいけないよ。

よね。WBG Tと呼ばれる湿球黒球温度の暑さ指数で31度以上になると運動は原則禁止、と環境省だけでなく日本スポーツ協会や日本サッカー協会のHPにも明記されている。気温に換算すると35度以上。ACS Mアメリカスポーツ医学会に至っては暑さ指数28度（気温31度）で10マイル（16キロメートル）を超える長距離走が厳禁だよ。

2013年にIOC（国際オリンピック委員会）に提出した東京大会「立候補ファイナル」には、「この時期の天候は晴れる日が多く、且つ温暖であるため、アスリートが最高の状態でパフォーマンスを発揮できる理想的な気候である」と書いているんだか

ら、ほとんどフェイクだ。

浅田 福島の子力発電所が「アンダー・コントロールだ（制御下にある）」っていう安倍晋三首相のIOC総会での発言と同じく、嘘っぱちもいろいろ。建設中の新国立競技場は、空調がなくとも風が通るよう設計されてる素晴らしいと言ってるけど、実際やってみるとの（苦笑）。我々もともと東京五輪開催には反対だけど、本場に「アスリート・ファースト」でやるんだしたら、テレビの都合に合わせるより、1964年東京五輪と同じく10月10日に始めりゃいいんだよ。

田中 まったくね。前回も触れたけど、22年にカタルで開催されるワールドカップのスタジアムはすべてエアコン付き。しかも慣例を破って11月21日に開催する。その時期のドーハの温度は22度前後。日本もカタルの交渉力を見習って。

浅田 東京五輪の開催式式の演出は狂言師の野村萬斎が総合統括を務め、オリンピックは「ALWAYS 三丁目の夕日」の監督の山崎貴、パラリンピックはソフトバンクの「白戸家」のCMで有名な佐々木宏が担当することになったけど、この人選だけでも、国際性がまるで感じられない。

田中 野村には悪いが、総合統括の彼が何かできるわけではないでしょ。広告代理店が取り仕切る中で、いわばデイズニーランドのアンバサダー。

浅田 そもそも、開閉式のパフォーミングは、オリンピックをいまみたいに商業化した84年のロサンゼルス大会から派手になった。そんなのはやめ、アマチュア・スポーツの原点に戻って、64年東京五輪のように高校野球みたいな開閉式をやれば、問題提起にはなるのに。

あと、ポランティア頼みの運営も問題で、あれじゃほとんどブラック・バイト。田中 そのとおり。「夏季休暇に該当するため、公共交通機関や道路が混雑せず、ポランティアや子供たちなど多くの人々が参加しやすい。この時期は日本全国で伝統的な祭が多く開催される時期であることから、祝祭ムードが漂っている」というワン・セッションに2回も「時期」が登場する文章も、大会組織委員会のHPに修正もされずアップしたまま(苦笑)。11万人ものポランティアが参加する筈だとの皮算用らしい。

で、ポランティアの「条件」は、「10日以上の活動を基本」研修及び活動期間における滞在先までの交通費及び宿泊は、自己負担・自己手配」。その一方で、総務大臣を務めた竹中平蔵が会長のパソナが「人材サービス」カテゴリで『東京2020オフィシャルサポーター』契約を結んで取り仕切る。なのに朝日も毎日も読売も日経もオフィシャルスポンサーだから黙りこくったまま。こうした問題に普段はコメントしないイメージの勝間和代も武井壮も疑問を呈しているのに、都知事を辞任した猪瀬直樹が「ネットにブラック・バイトだみたいな変なことが書いてあったりするが、本当に一生に一度しかない国際体験をするわけで、本人の成長にもなる。ポランティアの意味が分かる、感度のいい人間は自然に行くだろうし、あまりせこい議論をしていると情けなくなる」と大政翼賛的発言をしたのには唖(あ)った。せこいのは誰だよ(爆笑)。

「カジノ法」が成立するも、横浜はMICEにすべき!

浅田 7月20日に特定複合観光施設区域整備法、いわゆる「カジノ実施法」が成立し

たけど、カジノをつくる場所はどうやら大阪に決まっているみたい。前にも言ったように、ラスヴェガス・サンズのシェルドン・アデルソン会長がドナルド・トランプ米大統領のスポンサーの一人で、6月にトランプと会談するためシンガポールを訪れた金正恩朝鮮労働党委員長が、会談前夜に系列のマリーナベイ・サンズを訪れたのも、意味深長。大阪に同系列のカジノができてもおかしくはない。ただ、そうやって大阪にカジノをつくったとしてもシンガポールやマカオに勝てるわけがないんだから。

田中 まったく健康・いのち・長寿」をテーマに掲げて招致活動している2025年の万博だって果たして来るかどうか。その対抗馬であるカスピ海に面したアゼルバイジャンのバクーには以前に僕も出掛けただけど、過去最高の興行収入を得たシリーズ19作目の『007 ワールド・イズ・ノット・イナフ』(1999年)の舞台がバクー。今やハイアットをはじめ豪華なホテルが立ち並び、多くがカジノを備えている。そこにオリガルヒと呼ばれるロシアの富

立派なホールさえできれば千客万来だとハコモノ行政に走った頃と何も意識が変わらないカジノ至上主義な面々には、少し頭を冷やしてもらわないとね。(田中)



田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。http://tanakayasuo.me

豪たちがシロヴィキと呼ばれるロシアの高官と一緒にやって来てポーカーやバカラのテーブルを囲む。カジノのスタッフと示し合わせて、接待した側のオリガルヒや雇われた「プロ」が途中からあえて負けて、接待された側のシロヴィキが大儲けして、マネーロンダリングを行っているんだね。

中国に返還後もスタンレー・ホー一族が君臨するマカオも、賭博社会の中国を反映して一時期、「合法的」な資金洗浄の場として活況を呈した。でも、あまりに露骨な状況が問題視されて、習近平が手綱を引き締めたものだから、閑古鳥が鳴いているらしい。初代首相のリー・クアンユーが「開発独裁国家」として成長させたシンガポールのカジノにも、そうした側面があると。スロットマシンに興ずる観光客のみで「採算」が取れる訳もないんだ。

一方、ヴェネチアやバーデン・バーデンのカジノは「社交場」としての側面が強い。ヴェネチアの運河沿いに佇む世界最古のカジノは1638年からの歴史を感じさせるし、「世界で最も美しいカジノ」だとマレー

ネ・ディートリッヒが称賛したドイツの温泉保養地バーデン・バーデンのカジノも250年以上も前から存在する。つまりは「ロンダリング」と「サローネ」。カジノにも2種類あるんだ。

浅田 競馬も同様で、アスコットやロシヤンのような社交場としての競馬と、日本の大衆ギャンブル競馬は、ぜんぜん違う。

田中 実は日本は、霞が関の官庁が胴元の公営ギャンブルがいくつも存在する不可思議な国。中央競馬は農水省、地方競馬は総務省、競艇は国土交通省、競輪とオートレースは経産省。全国で1万軒を超えるパチンコパーラーも、警察庁が所管している。カジノ反対論者は皆、ギャンブル依存症が心配だと口を揃えるけど、オオタカの営業地がダム建設予定地にあるからつくらないで、と環境保護団体が訴えるのと同じで、説得力は弱い。俺たちの食い扶持と日本中の里山に棲息しているオオタカとどっちが大事なんだとやり込められちゃうのと似てる。

そもそも、フョードル・ドストエフスキは根っからのギャンブル好き。その破滅的な生活が『罪と罰』や『賭博者』といった作品を生み出した。泥棒と娼婦は世界最古の職業と言うけど、博徒も連なるわけだから、ギャンブル依存症だけでは日本でのカジノ推進派の息の根を止めるのは難しい。事業主体が国であろうと自治体であろうと、事業費の7割を中央政府が負担して、巨額公共事業は地元を潤すんだと盲進していたダム推進派が長野県でも一瞬、怯んだのは、実は東京や大阪が本社のゼネコンに事業費の8割が渡っている現実を僕が繰り返した述べた側面も大きいと思う。事業費の3割は県が財政支出するのに、孫請け・曾孫請けも含めて2割しか地元にお金



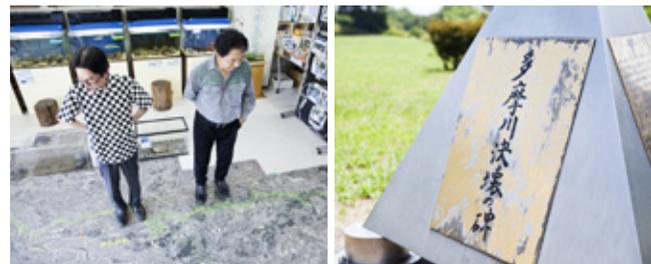
が落ちないなんて持ち出しじゃないか、と。浅田 当初は横浜もカジノに色気を出してみたいだけ、その後はどうなの？

田中 横浜市役所や横浜商工会議所は、山下公園に隣接する山下埠頭を再開発する目玉商品としてカジノがふさわしい、と考えているみたいだけど、それに対して昨年末から、船内や沿岸、倉庫の荷役等の港湾運送事業を手掛ける企業が集う横浜港運協会が、カジノではなく見本市会場を建設すべきだと方針転換して、注目されている。

国際戦略港湾の横浜には、本牧埠頭、大黒埠頭、南本牧埠頭とコンテナ船が着岸する埠頭が整備されている。これに対して、在来型貨物船向けに高度経済成長期の前半に活躍したのが山下埠頭。その利活用が議論となっていたところに降って湧いたのがカジノ。でも、カジノが市民の暮らしに貢献できるかい、と父親が大正12年に起こした藤木組が前身の藤木企業を営む藤木幸夫会長は疑問を呈している。

浅田 まだしもヴェネチアのようなカジノなら趣があるけど、マカオのようなカジノだと横浜にはそぐわないね。

田中 日本ではマカオやシンガポール以上にカジノのイメージが強いラスヴェガスは、浜田幸一（ハマコー）が1973年の為替レートで約5億円を擦った頃とは一変して、世界最大の全米家電見本市、IBMの人工知能やアップルの新製品発表会などが開催され、頭文字を取ってMICEと呼ばれるミーティング（会議・研修）、インセンティブ・ツアー（報奨旅行）、コンファレンス（大会・学会）、エキシビジョン（展示会）に参加する人々がバリー・マニロウをはじめとするアーチストのショーを楽しんだ後にカジノへも足を運ぶ「ファミリー・デス



東京五輪開催には反対だけど、本当に「アスリート・ファースト」でやるなら、1964年東京五輪と同じく10月10日に始めりゃいいんだよ。(浅田)

ティネーション」へと変化を遂げているんだ。昨今の収益構造はカジノ40パーセント、ショー&イベント30パーセント、飲食&ショッピング15パーセント、宿泊15パーセント。カジノ65パーセントの一本足打法で失速気味のマカオとは好対照。

藤木氏は47万平方メートルの山下埠頭に25万平方メートル規模の見本市会場を設けて持続可能な経済効果を生み出すべきだと考えているんだね。7月18日の神奈川新聞のインタヴューで「カジノに来る客は海外からという計算は現実とは違うだろう。日本人が銀行に預けずに自宅などで保管している『タンス預金』を狙っているのは明らか」と語っている。

世界の見本市会場は47万平方メートルのハノーヴァーをトップに上海、フランクフルト、ミラノ、広州、昆明、ケルン、デュッセルドルフ、パリ、シカゴと続いてベスト10はいずれも25万平方メートル以上なんだ。過去の事例が物語るように、景気のリバウンドが避けられない東京五輪や大阪万博の「一過性」と違って見本市は、宿泊・

飲食・運送・観光と多岐にわたって雇用という「恒常性」を地元を生み出す。ところが、日本最大のビッグサイトでも10万平方メートルにも満たない。世界で77位。幕張メッセは109位だよ。しかも両者とも来年4月から20か月、「国策」東京五輪のメディアセンターなどに用いる準備で利用できなくなっちゃう。そのビジネスチャンスは中国や韓国が狙っている。見本市は開催場所が一旦移ったら、元の場所には戻ってこない。これこそ「国難」なのに、東京五輪の翼賛的体制に組み込まれている新聞各紙は取り上げもしない。

浅田 横浜選出の營養偉官房長官によく聞いてもらいたいね。

田中 大王製紙創業家三代目の井川意高氏は自身の経験を踏まえて「日本のIR法は童貞と処女がAVの脚本を書いているレベル（百戦錬磨な海外のカジノ運営業者にとって）赤児の手を捻るようなものだ」と語る。アトラニック・シテイがダメになったのもカジノとホテルしかなかったから。浅田 そこに「タージ・マハル」ってカジノ

ノをつくり倒産させたのがトランプだった。そのトランプが、たぶん米韓軍事演習の映像を見て誤解してるんだと思うけど、「北朝鮮のビーチは開発したら素晴らしいリゾートになる」とか。案外、当たってるかも。ちなみに、ドイツのパスポートで北朝鮮に入国した韓国女性監督チョ・ソンヒョンの撮った『ワンダーランド北朝鮮』って映画は、北朝鮮の現状をいい意味で素直に撮って好感が持てるけど、とくに近代化に汚染されていない田舎の風景が実に美しい。北朝鮮当局が風光明媚な場所を選んで撮らせたのかもしれないにせよ、人や家畜の糞からメタンガスを発生させて使う農民の暮らしなんかもちろん撮ってるからね。トランプの言うのとは別の意味で、観光資源として有望だと思ふよ。

田中 2号前の対談でも述べたけど、金正恩の北朝鮮はシンガポールを経てスイスを目指している気がするね。

浅田 イギリスの経済学者スーザン・ストレンジが、投機化した資本主義をメタファとして「カジノ資本主義」と呼んだけど、アベノミクスは文字どおりカジノしか売物が無いのか、と（苦笑）。米欧が金融の正常化に向かうなか、日本銀行も遅まきながら量的緩和を事実上縮小させ始めたけれど、いまだに物価上昇率2パーセントの目標は固持したままで、出口戦略は見えない。こういう無制限な資金供給のもたらすカジノ資本主義をどうするかってのが緊急の問題なんで、カジノの誘致なんて言ってる場合じゃないんだよ。

田中 立派なホールさえできれば千客万来だとハコモノ行政に走った頃と何も意識が変わっていないカジノ至上主義な面々には少し頭を冷やしてもらわないとね。

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

